

# 協働のまちづくり 第57回

## これまで、そして、これから 「箱ワナ」の説明をする岩崎さん

市民と一緒にまちづくりを進めるため、平成19年度から始まった「市民サービス協働化提案制度」。これまで30事業を、市に代わって市民活動団体などが実施しています。今回は、増加するイノシシの被害から島の生活を守るために活動する「地島イノシシ対策グループ」を紹介いたします。

■問い合わせ先  
市民活動交流室 ☎(36) 0311

### えっ？ 地島に： 思いがけないイノシシの出没

島にいないはずのイノシシが出没したのには今から約6〜7年前。観光資源の椿(つばき)ロードは踏み荒らされ、通学路でも頻りに目撃されるようになったのです。イノシシが島に住みついた原因は「泳いで島へ渡るのを見た」「人が持ち込んだ」などいろいろと言われていますが、

### 畑や校庭の花壇も被害に 子どもたちの安全も心配

岩崎さんに被害箇所を案内してもらいました。おそらく、ミミズなどのえさを探しているのでしょう。あらゆる場所を掘り返しています。

宗像市消費生活センター  
**転ばぬ先の杖**  
☎(33)5454  
でばんぴちゃん

「無料点検」「アンケート調査」から  
高額な契約に  
**販売目的を隠した訪問販売が急増!**



訪問販売に関する法律「特定商取引法」が2年前に改正され、規制がより強化されました。訪問販売は年々減少していましたが、最近、再び急増してきています。

■事例1  
2日前に「電気温水器の水抜きをしているか」と突然、業者が訪ねてきた。「温水器のタンクに水あかがたまる。脱臭や殺菌の効果があり、一度洗浄すれば10年間は大丈夫」と、20万円の洗浄サービスを勧められ契約した。念のため、メーカーに聞いたら、必要ないと言われたので解約したい。(60歳代・女性)

■結果  
2日前の契約で、クーリング・オフ期間(契約日から8日間)内だったので、契約解除通知ハガキを事業者宛てに送り、契約を解除することができました。期間内であれば、工事にかかっても、また、工事が完了していても無条件で契



■事例2  
10日前、水道局からの電話と思ってアンケートに答えたら、お礼と言って訪問され、水質検査をすると言われたので台所へ案内した。コップに取った水道水に薬品を入れたら水がピンク色に変わり、その水を機械に入れたら透明に戻った。「水が汚れている。機械を買

■結果  
有害物質が含まれていると不安にさせるため、水道水の塩素に反応する薬品で水をピンク色や黄色などに変化させ浄水器を売りつける手口です。塩素での消毒は、水道法で義務づけられています。クーリング・オフの期間は経過していましたが、勧誘方法の問題点を

うように」としつつこく動められ、年金支給日に40万円を払うことになって契約した。水道局から来たというので、浄水器の訪問販売だったので解約したい。(80歳代・女性)

■結果  
事業者は訪問先で開口一番、「会社名」や「商品名」を告げ、「勧誘を受ける意思があるかどうか」を確認することが義務づけられています。断った人へ勧誘を続けることは禁止されています。「無料点検」や「アンケート」と言われても、慎重に訪問の目的を確認しましょう。

から、自主的に島から出て行ってもらいたいです。でも、島で生まれたイノシシがほとんどですからそうもいかんでしょう」と岩崎さんも苦笑い気味でした。

指摘して契約は取り消しとなりました。浄水器は撤去、支払い済みの申込金も返金されました。

◎訪問の目的を確認し、不要な場合ははっきり断りましょう!  
事業者は訪問先で開口一番、「会社名」や「商品名」を告げ、「勧誘を受ける意思があるかどうか」を確認することが義務づけられています。断った人へ勧誘を続けることは禁止されています。「無料点検」や「アンケート」と言われても、慎重に訪問の目的を確認しましょう。

が困難で、畑作りをやめる人もいるそうです。地島小学校の立花伸幸教頭(55歳)は「イノシシは校庭にも現れ、花壇を荒らし、子どもたちの作ったイモも食べてしまいます。特に、通学途中の子どもたちの安全が心配です。登下校には保護者や先生たちの送迎が必要になりました」。

イノシシの駆除は、猟犬にイノシシを追わせて急傾斜地や断崖が多く、人や犬にも命がけの猟に

「箱ワナ」の管理も一苦勞です。日常的に箱ワナの巡回点検をして、えさの補充や壊れたワナの補修などをします。時には、箱ワナを移設したり、新

グループでは、平成20年度に52頭、21年度に65頭、22年度に48頭のイノシシを捕獲しました。「イノシシを解体するには、半日もかかり、技術も必要です。そして最大の問題は、解体後の処分方法です。環境への影響にも配慮しなければいけません」と岩崎さん。毎年、これだけのイノシシが捕

獲できるのは、獲っても獲ってもイノシシが減っていないということですね。イタチごっこならぬ「イノシシごっこ」です。岩崎さんたちの生業は漁師業で、漁の合間を縫ってのボランティアです。先の見えない捕獲作業に「イノシシも勝手に海を渡ってきたんです

「島づくり」ができないか、イノシシと「共存」できないかなど、勝手に思ったりもします。島あげの駆除のための協力体制は整いつつあるようですが、岩崎さんたちの苦勞はまだ続きそうです。

「市民活動交流館 館長・立石美

**多重債務電話相談**

■県弁護士会  
毎週土曜日  
10:00~13:00  
\*祝日は休み  
☎092(721)6778

■福岡財務支局  
毎週月~金曜日  
9:00~17:00  
\*年末年始、祝日は休み  
☎092(411)7291